

北社会ニュース 第57号

2009年9月14日

発行者：鈴木壮夫

“戦後政治に大きなうねり”

読売(?)に次の記事が掲載されていた。8日付けのニューヨーク・タイムズ紙に作家の村上龍さんの「成人する日本」と題する寄稿文が掲載された。先の衆院選の結果に対する日本人の反応が、政治的な成熟ぶりを示したものだと言及した。民主党の圧勝なのに、なぜ国民はもっと喜ばないのかと問いかけ「日本人が、どの政府も問題を解決できないと理解しつつあるからだ。だが、これはいいことだ。日本はついに大人になり始めた」と論じ、次いで「日本人はこうした時期の政権交代で、生活が改善すると喜んだり信じたりするほど単純ではない」と述べているそうです。

二高時代から左翼(古い言葉ですが)の私にとって今回の選挙の民主圧勝は開票速報がどんどん流されている当日は勿論のこと、二週間経った今でも実感が湧いてこない。自民が惨敗するなんて自分が生きている間に起こりえないと50年以上もあきらめていたのですから。それ程、国民の皆さんが「自分達が踏み出すしかない」という決断をされたのでしよう。雇用や医療や介護のひび割れが国民の足元まで広がり、日々の生活に窮するようになって、民意のうねりが一気に顕在化したとしか考えられない。そして思います。

本来、私たちは政治の「主人公」であって「お客さん」ではない。私たち自身の怠慢や横着さで、自らの手で状況を変えていく熱意や意欲を失っていたんだと。国民ひとりひとりが「主役」で「当事者」の社会に作りかえていかねばならない。残された人生を「ともにともにいそしむ日本社会」実現に向かって、努力しようと思っております。

二高時代のエネルギーを発揮します。機会が到来したこと幸せと思い、生きております。

(1) 本日、第275回 北社会

講師：日下豊顯氏(高9回) (株)メックモールド 代表取締役会長

テーマ：「ヴェトナム近況及びヴェトナムや中国に工場進出させて思う事」

東アジアへの海外進出企業が抱えている喜び、苦しみ、連帯、リスク、賃金格差、そしてなによりも経営上の採算等々世話人としての私の当初からの大きな興味でした。今まで数人の同窓の方々にご講演を依頼しました。今回、やっと日下先輩にお引き受けいただき、楽しみにしております。

(2) 来月の北社会 開催日：10月19日(月)

講師：笹木幸雄氏(高22回) 青和特許法律事務所 商標部 弁理士

テーマ：「知的財産の現状」

(3) 11月の北社会 開催日は未定です。

講師：西 紘平氏(高11回) (株)ロッテアイス社長 雪印乳業・元社長

テーマ：「食品産業のリスクマネジメント」